三條新聞
発行所
三条市東裏館2-21-38
三條新聞社
電話32-5511番(代表)
FAX32-5226番(代表)
©三條新聞社 2020

抗菌メッキに照会急増 燕市・高秋化学

神戸製鋼開発の抗菌メッキ技術 20年前にライセンス取得

菌やカビの成分分解 効果は持続する

新型コロナウイルスの感染拡大で抗菌メッキ等の照会が急増している 燕市の高秋化学

抗菌メッキ等について話す高橋靖之社長

抗菌皮膜の粉末を活用した高秋化学の自社開発製品

新型コロナウイルス感染症の拡大で公共施設等では定期的な換気や消毒といった感染症予防対策が講じられている中、病院内のドアハンドルや点滴用器具、幼児用絵本、畳、スマートフォン用シール、ネックストラップなどへの抗菌メッキ等を手がける燕市小池、高秋化学（高橋靖之社長）は抗菌メッキ技術や、メッキ皮膜を粉末状にして活用する技術等についての照会が急増している。

「スプーンからロケットまで」という幅広いメッキ技術が売りの同社は、二十数年前に病原性大腸菌O-157による食中毒が発生したのをはじめ、その後、新型肺炎SARSや新型インフルエンザが流行したことなどを受けて神戸製鋼所が独自開発した抗菌メッキ技術のライセンスを二〇〇二年に取得。さらに、昨年三月にはこのライセンスを第三者に供与できるサブライセンス権も国内で唯一、取得している。

神戸製鋼所の高機能抗菌メッキ技術は独自開発した高機能ニッケル系合金メッキで、減菌速度が速く、カビも抑制できる高い抗菌作用が特徴。開発後、技術ライセンスを表面処理会社に供与する形でビジネス展開してきたところ、高秋化学ではいち早く取得して、病院内のドアハンドルや点滴用器具、回診用ワゴン、給食かご、台所の三角コーナーに入れる金属プレートなどに抗菌メッキを施してきたほか、抗菌メッキで生じる皮膜を粉末状にする技術を開発して、印刷用インクなど塗料と混ぜ合わせて、幼児用絵本、ネックストラップ、お薬手帳、スマートフォン用シール、柔道場の畳、ペット用マットなどに活用するなど豊富な知見、活用実績がある。

こうした中、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、同社に抗菌技術に関する照会が急増。二月初めに東京ビッグサイトを会場に開かれた東京インターナショナル・ギフト・ショーでも注目を浴び、「この技術を教えてほしい」「サンプルを頂きたい」などの問い合わせが続いたという。

これまでのパンフレットや資料では、新型コロナウイルスへの効果はうたってはいないが、神戸製鋼所でこの技術開発に携わったスタッフを昨春、同社に技術顧問として迎え入れており、今回の新型コロナウイルスへの効果については「SARSも新型インフルエンザも、コアとなるウイルスはコロナウイルス。新型コロナウイルスもこれから派生したものであり、コロナウイルスに効果があることから、当然、新型コロナウイルスにも効果はある」（同社）というわけ。

同社では抗菌メッキ技術や、粉末に関する問い合わせ、さらに粉末を活用した同社開発商品の問い合わせに対応しており、例えば、ドアハンドルは内装業者を通しての対応が一般的だが、同社・高橋正行会長は「自分で外して、会社に持参してくださっても、抗菌メッキを施します」と柔軟に対応する構え。

同社・高橋靖之社長は「スプレーや拭き取るタイプの消毒は、消毒後に触れれば、菌が付着するが、抗菌メッキは菌やカビの成分を分解するため、効果が持続する。今後、動画なども活用して詳しく技術面でも情報発信していければと思っている」と話している。

幼児用絵本
ネックストラップ
お薬手帳
スマホ用シール
柔道場の畳
ペット用マットなどにも